

本年度中に学部の移転を完了

—西条キャンパス周辺の整備充実も緊急課題—

本シリーズの六回目として、五月二十日に、今年度の抱負などについて、越智広報委員が、委員長とともにインタビューした。

広報委員「二十六期第一号の学長インタビューですので、今年度の抱負をお聞かせください」

学長「きめのこまかい移転の完了を目指す。来年の三月末までに学校教育学部と法学部、経済学部が移転する。これら学部の校舎、そして学生会館、学生宿舎、機器分析センター、中央図書館増築などの建物が現在建ちつつある。本部もできるだけ早く西条キャンパスに移転するつもりだ。

さらに、医学部では保健学科や動物実験施設の整備が予定されており、また皆実の附属学校には情報教育棟が建築中だ。HINETについても有効な利用法を検討中だ。学生のサービスとしてシラバスを載せたり、構成員とメールでキャッチアップできないか、と現在教務課などに検討をお願いしている。その他環境整備では、山中池を中心とした住民憩いの場を作る予定もある。周辺の緑化も鋭意進めたい。移転についてははや不安はない。



教官及び学生の意識改革を望む

アジア競技大会が迫っていますが、協力体制は進んでいますか？

現在進行中だ。六百名の医療関係者の協力要請があるが、検討している。具体的にどう協力するか、については学生などとの対話が必要だと思っている。

西条キャンパスでの学生生活に必要な学外の環境整備について、対策は？

学生宿舎に限らず、大学の近くにスーパーやガソリンスタンド、そして赤提灯の店が必要だと思うから、

商工会議所、商店街などに協力をお願いしている。後には精神面の問題がある。大学とはいえ、リラククスや遊びも必要だから、それが少なければノイローゼ症状がでるのではないかと心配している。保健管理センターと連携しながら考えたい。交通の問題はやはりまだまだ改善の余地がある。学内の循環バスなどがあればいいと思うが、簡単で経費がかからない解決法を皆で考えてほしい。むろん、大学と駅との間や西条と広島の間のアクセスの問題についても、もっといい方法を考えなければいけない。

「新しい大学像」(前期5/6合併号)に生きる「新しい教官像」と

「新しい学生像」を具体的にお知らせください

まず、教官の意識を変えてもらわなければならない。これまでのような研究第一主義ではなくて、むしろ学生の教育が第一だ。講義を終えれば、それで学生の教育は終わりなどと考えるといけない。もっと学生に時間を割いていただきたい。私は自分の研究は夜やったものだ。この点から言えば、大学人を評価する際、その人の教育能力を評価する必要もあると思う。

そうした教育環境に学ぶ学生について一言すれば、学生として甘えないことが大事だ。現代の社会はどの分野でも実力主義に変わりつつある。学生にも人生に対する気構えが必要だ。今のうちに自分の適性や目標を捜しておいてほしい。

最後に何かありましたら一言お願いします

文部省科研費の採択率がわずかではあるが上昇したことをお知らせしたい。昨年は三二・八%だったが、今年は三四・七六%になった。これからもどしどし申請してほしい。それから渋谷財団からの援助で国際交流に一千万円、体育会に一千万円をいただいた。そのほかでは、国際交流会館の隣に留学生のための多目的ホールを作ってはと思っている。今、基金で作ろうと頭を悩ませている。いい知恵を寄せてほしい。